

公益社団法人東京都盲人福祉協会

平成 31 年度(令和元年度)報告書

(平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日)

活動ならびに事業報告

臨時代議員総会の決定に基づき、会員の強力な支援の下、組織を挙げて積極的に運動を推進した。

第 1 は、交通安全対策である。関係方面に積極的に働きかけているにも関わらず、二人の視覚障害者がホームから転落し、入ってきた電車にはねられて死亡するという悲惨な事故が発生した。残念ながらお二人とも本会の会員ではなく、事故の詳細は知ることができなかったが、年に二人もホームから転落し、死亡するという事は、前例がなく、緊急対策を講じていかなければならない。もちろん、京成電鉄と JR 東日本には嚴重抗議し、安全設備の整備を強く求めた。

その第 2 は、あん摩師等法第 19 条の堅持である。平成医療学園グループが、新たな施設開設を認めないのは憲法違反として、行政を相手どり訴訟を起こした問題は、関係団体一致しての反対運動の結果、去る 12 月 16 日に判決が出て、学園側が敗訴となった。しかし学園側は東京高裁に判決を不服として控訴したため、さらに裁判は続くことになり、これまで以上の反対運動が必要となった。皆さんの一層のご協力を切望して止まない。

第 3 は、災害対策である。昨年 10 月 12 日、台風 19 号が関東から北陸地方を襲い都内でも水害が発生し、会員の中にも被災者が出た。特に問題なのは、避難所に行っても満員で、断られるという事態が発生したことだ。いかに避難対策が不備であるかを証明している。災害対策は、より一層完全なものにしていかなければならない。

第 4 は、オリンピック・パラリンピック問題である。コロナウイルス問題で 1 年延期となったが、本会ではパラリンピックが単なる催しとして開かれるのではなく、障害者が社会の一員として参加ができる共生社会の実現を目指してい

たが、未だその活路は見出されていない。開催延期を機に実りあるパラリンピックの開催を求めていく。

各事業における実績は下記のとおり。

I 目の不自由な都民の福祉と生活向上等を目的とする事業

1. 更生援護事業

都盲福祉センター内に相談コーナーを設置し、各種相談に応ずるとともに助言指導に当たった。また吉田美奈子副会長、大胡田誠監事を東京都障害者福祉会館に相談員として派遣し、各種相談に応じた他、各支部役員が各自自治体の委嘱を受け、身体障害者相談員として、視覚障害者の更生援護、生活の指導に当たった。

2. 第 51 回東京都盲人福祉大会の開催

第 51 回東京都盲人福祉大会を渋谷区視覚障害者福祉協会との共催により、10 月 29 日に渋谷区文化総合センター大和田さくらホールで開催、会員ならびに関係者約 1,000 名が参加し、当面する諸問題について宣言・決議を採択する等、有意義な一日を過ごした。

3. 交通安全対策

目の不自由な都民の歩行の安全を確保するため、東京都福祉のまちづくり推進協議会に委員を派遣し、意見の反映に努めるとともに、ホームからの転落事故防止対策、歩行の安全確保のための対策推進を関係方面に要請した。

4. 高齢者・重複障害者対策の推進

盲老人ホーム聖明園に対し見舞金を贈った他、盲ろう重複障害者に対し点字 JB ニュースの無償配布を行った。

5. 同行援護従事者の研修

各事業者が実施した同行援護従事者養成研修に対し講師を派遣し、目の不自由な都民に対する理解・誘導方法などを助言指導した。

6. 各種保険の取扱

目の不自由な都民の福利を図るため、損害賠償保険について日視連を介

して関係企業と契約し、取り扱った。

7. 身体障害者ジパング倶楽部の斡旋

身体障害者手帳を有する、男性 60 歳以上、女性 55 歳以上に対する JR の身体障害者ジパング倶楽部制度への入会、斡旋を行った。

8. 目の不自由な都民の諸問題に関する調査研究事業

補助犬(盲導犬)に関するアンケート調査(厚労省)、視覚障害者誘導用ブロックに関するアンケート調査(日本歩行訓練士会)、障害福祉サービス利用者の暮らしの状況に関するアンケート調査(厚労省)等に対し協力するとともにアンケートに回答した。

9. 都内における視覚障害者団体および福祉団体との連絡調整に関する事業

【1】各区市との連携

都内各区市に設置されている視覚障害者団体(支部)との連携を密にするとともに情報交換を行った。

【2】関係団体との交流

NPO 法人 TOMO をはじめ、(公財)杉山検校遺徳顕彰会、(社福)日本視覚障害者団体連合、(公社)東京都身体障害者団体連合会など関係団体との連携を密にし、諸問題の解決に努めるとともに支援した。

【3】組織の拡大強化

都内各区市に視覚障害者団体を組織するとともに、都内盲学校、視覚障害者関係施設にパンフレットを配布し、会員の増員に努めた結果、西東京市視覚障害者協会が加入した。

10. 盲人用具の改善普及ならびに斡旋に関する事業

目の不自由な都民の便宜を図るため、盲人用具の紹介、斡旋を行った。

11. 点字出版・録音物の製作発受に関する事業

情報サービスの一環として、点字による印刷物を随時作成し配布した他、点字使用の困難な目の不自由な都民を対象に録音物等を製作し情報サービスに努めた。

12. 目の不自由な都民への生活および福祉等の情報提供に関する事業

【1】点字東京の発行

機関誌「点字東京」第 305 号から同 310 号まで、点字、活字、メール、音声版で発行した。

【2】声の東京の発行

「声の東京」カセットテープならびにデイジー版を毎月発行した。

【3】日視連広報誌の配布

日視連発行の愛盲時報(活字版)および日視連アワー(音声版)、声の厚生(音声版)を各支部に配布した。

【4】各種通達の発行

各種連絡、諸事業の紹介伝達を行うため、都盲協発第 1 号から同 145 号までを発行、周知徹底を図った。

【5】メーリングリストの利用

都盲協メーリングリストを利用し、各種情報交換等を行った。

【6】ホームページの活用

本会活動について、ホームページを活用し啓発広報に努めた。

13. 福祉委員会の開催

福祉諸問題について会長の諮問を受け意見を具申するため、委員会を開催しこれに当たった。

14. 目の不自由な都民に対する東京都の受託事業

東京都福祉保健局、生活文化局、教育庁の委託、補助による諸事業を実施した。

【1】点字による即時情報ネットワーク事業および電話ナビゲーション事業

【2】点字・録音刊行物作成配布事業(12回)

【3】施術者講習会事業

【4】広報東京都音声版作成配布事業(12回)

【5】視覚障害者音楽教室事業(9回)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回中止

【6】家庭生活訓練事業(67回)

主な内容 IT教室、料理、リズム体操など

【7】中途失明者緊急生活訓練事業

主な内容 歩行訓練、点字指導、家事、IT機器訓練など

【8】盲青年等社会生活教室開催事業(青年27回、シルバー39回)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、青年9回、シルバー1回中止

主な内容

(盲青年)就労問題、移動・交通問題、IT教室、ヨガ教室など

(盲高齢)短歌・川柳教室、講演会、民謡など

II 目の不自由な都民の職業対策を支援する事業

1. 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業

就労継続支援 B 型事業所パイオニアを設置、点字印刷、点字シールの作成、広報東京都音声版の作成、テープコピー、点字用紙の古紙を利用した封筒製作・販売などを行った他、新宿区の緑化事業に協力し、花壇の整備管理に当たった。

2. 研修会の開催

はり・きゅう・マッサージ従事者の資質向上を図るため、講師に明治国際医療大学学長矢野忠氏、筑波技術大学教授鮎澤聡氏、神奈川衛生学園専門学校名誉学校長後藤治久氏を招聘し6回にわたり研修会を開催した。

3. 諸対策

平成医療学園違憲訴訟問題をはじめ、無資格者の徹底取り締まり、職域の拡大などの諸問題を解決するため、日視連の方針に従いその推進に当たった。

4. はり・きゅう・マッサージ健保取扱の代行

はり・きゅう・マッサージの健康保険、後期高齢者医療等の取扱に際し、その便宜を図るための事務手続の代行を行った。

5. 保有証発行手続

無資格類似行為者の一掃を図るため、厚生労働大臣免許保有証を発行、はり・きゅう・マッサージ従事会員に呼びかけその手続きを行った。

Ⅲ 目の不自由な都民の教養・文化および スポーツ・レクリエーションに関する事業

1. 指導者研修会の開催

11月8日 東京都障害者福祉会館で開催、講師に合同会社みんなの手代表清水康弘氏を招聘し、「消費税増税から生活を守る」をテーマに研修した。

2. パソコン教室の実施

ボランティアの協力のもとにパソコン教室を開催、緊急を要する視覚障害者を対象にパソコンの指導を行った。

なお、パソコン教室の実施に当たっていた非常勤講師が受講者のプライバ

シーを侵す行為があり警察の捜査を受けたが、「法には抵触しない」との捜査結果報告があった。本会としては、受講者に影響のないよう配慮し、非常勤講師とは契約を解除し、解任した。パソコン教室は講師を改めて依頼し、事業は継続した。

3. 徒歩訓練の開催

9月25、26の両日、新潟の名所旧跡を散策する等、見聞を広めるとともに、会員相互の友好親睦を図った。

4. 芸能コンクールの開催

平成31年度(令和元年度)芸能コンクールを10月29日、渋谷区文化総合センター大和田さくらホールで開催した。(敬称略)

優 勝 菊 池 重 成 (町 田 市)

準 優 勝 小 林 康 雄 (多 摩 市)

第 3 位 牧 野 一 枝 (大 田 区)

5. 東京都盲人体育祭の開催

10月12日に東京都障害者総合スポーツセンターで開催を予定していたが、台風19号の襲来で中止した。

6. 東京都障害者スポーツ大会への参加

東京都多摩障害者スポーツセンター等で開かれた第20回東京都障害者スポーツ大会に会員有志が参加し活躍した。

7. 代表選手の派遣

第33回関東地区サウンドテーブルテニス大会(横浜市)に代表選手を派遣、団体戦で第3位に入賞した。

8. タンデムを楽しむ集いの開催

東京サイクリング協会の協力を得て、パレスサイクリングコースにおいて、3

回にわたりタンデムを楽しんだ。

9. 会員との交流会

4月6日、11月14日、会員の要望や意見を聴取することを目的に都盲福祉センターで交流会を開催、会員の意向の反映に努めた。

IV その他この法人の目的を達成するために必要な事業

1. 第49回関東地区グランドソフトボール大会の開催

5月18、19の両日、武蔵野中央公園グランドを中心に開催、関東ブロック加盟団体から6チームが参加した。熱戦の結果、東京都チームが優勝した。東京都チームの優勝は3年連続。

2. 各部会活動

青年、女性、シルバー、体育の各部会を設置し、それぞれの特性に応じた部会活動を推進した。

3. 受賞者祝賀会ならびに交流会の開催

都知事賞を受賞した音訳ボランティアの榛葉千津子さん、東京パラリンピックの出場を決めた高田千明さん(港区)を祝うとともに相互交流を図るため、1月17日千代田区のアルカディア市ヶ谷で受賞者祝賀会ならびに新年交流会を開催した。

4. 各種事業の受託

日常生活に必要な情報を提供するため、東京電力、東京ガス、民営鉄道、東京乗用旅客自動車協会などの委託を受け、点字シール、点字領収証などの作成に当たった。

5. 会員への弔意

会員の死亡に際し弔慰金ならびに弔電を送り、哀悼の意を表した。

(以下、順不同・敬称略)

浅田幸子 (北区)	古森千文 (小平市)
久保木幸子 (新宿区)	吉田昭男 (渋谷区)
眞下修身 (多摩市)	川西大子 (墨田区)
犬飼満治 (大田区)	森下惇子 (町田市)
岡畠信子 (江戸川区)	竹橋一成 (江戸川区)
市川とし子 (練馬区)	時任基清 (新宿区)
小林麻子 (江東区)	本木安夫 (武蔵野市)
新田紀子 (台東区)	飯塚幸雄 (葛飾区)
伊藤 勇 (墨田区)	

なお、本会ならびに東京都盲人福祉センターの運営に当たっては、正副会長会、常任理事会をはじめ、理事会、支部長会を開きこれに当たった。

また、東京都における目の不自由な都民のための福祉施策充実のため、東京都をはじめ、関係各方面に対し積極的な運動を推進した。